

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200200		
法人名	株式会社ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター河原塚		
所在地	千葉県松戸市和名ヶ谷9-2		
自己評価作成日	平成24年12月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成25年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>毎日の散歩を通し、地域住民の方々と触れ合い、地域にとけ込めるよう努めていきます。また、入居者・スタッフ共に笑顔が溢れる明るいホームを目指しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「ニチイケアセンター河原塚」は2階建ての各階が1ユニットの合計2ユニットである。エレベーターが設置されており、ユニット間の行き来は自由で、身体機能の変化に考慮された造りとなっており、入居者が安心して自由な生活ができるように配慮されている。施設としては地域との交流を目指しており、町会主催の消防避難訓練等への参加や、運営推進会議に出席の町会長を通じて施設の理解促進や災害時の協力の呼び掛けを行う等、地域との交流基盤の確立に向け取り組んでいる。職員は理念である「認知症の進行緩和」に取り組んでおり、連絡ノートの活用や会議等で意見交換・情報交換を行うと共に、松戸市グループホーム協議会会員として、講習会やスタッフ交流会等に積極的に参加し、外部の人達から得られた意見や経験等を日々の業務活動に活かしている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼で事業所理念を唱和して、スタッフ一同理念を共有して実践につなげている。	法人の社は「誠意・誇り・情熱」と「入居者の安心で楽しい生活の支援と地域とのふれあいを大事にする」事業所独自の理念を掲げており、明文化し施設内に掲示している。職員による朝礼時の唱和や会議や研修時に確認を行う等、社是・理念の周知・共有化を徹底し、日々のサービスの実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・町内会の行事(クリーン活動・避難訓練等)に参加している。 ・毎朝の散歩時に地域の方々のご挨拶を行っている。	地域住民とは散歩時等に挨拶を交わすと共に、集会所で行われるお茶会や町内会主催の避難訓練等へは積極的に参加しており、地域との交流促進に取り組んでいる。また、地域ボランティアの受け入れや、運営推進会議への町会長の出席等を通じて、施設の理解促進も図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・地域の行事に参加している。 ・年1回お祭りを開催し、近隣住民の方をお誘いしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月/回 運営推進会議を行い、状況報告や今後の活動について話し合い、内容をご家族へ送付している。	運営推進会議は、地域包括支援センター職員・町会長・民生委員・入居者・家族・職員を構成員として、2ヶ月に1回開催している。会議では、施設の活動報告・意見交換等を行い、施設の理解促進に努めている。また、運営推進会議後には会議録を全入居者家族に送付しており、施設の現状の透明化を図り、入居者・家族が会議に関心を持ってもらえるよう配慮している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・市に定期的に訪問や連絡をし、運営推進会議等を通じて交流を図り、情報を共有している。 ・研修等に積極的に参加している。	日常の業務運営全般に関する相談・連絡等を随時行うと共に、運営推進会議時に市職員と意見交換を行っており、市とは連携を図りながら情報の共有・問題解決に取り組めるよう体制を整えている。その他には、定期的に介護相談員の来訪があり、外部からの意見等を施設の運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員ミーティングで身体拘束についての話し合いをし、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアを施設の方針として掲げていると共に、マニュアルの整備や全職員参加の研修等を実施し、職員全員が正しい知識を身に付けてケアの実践に取り組んでいる。日中は玄関の施錠はせず、センサーチャイムを活用し、適切な見守りや声掛けにて入居者の安全面に配慮した自由な生活を支援している。他に、虐待防止スローガンを明文化し、事務所内に掲示しており、全職員が虐待の徹底防止に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員ミーティングで高齢者虐待防止マニュアルを読み合わせし、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時の研修で学び、また成年後見制度を活用している入居者がいて支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時に説明すると共に契約時には個人情報取り扱いや入居者の尊厳、提供するサービス内容等を読み合わせ理解をいただいた上で同意を得るよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議2ヶ月/回、家族会6ヶ月/回開催し、意見交換を行っている。	意見箱や相談・苦情窓口を設置していると共に、面会時・電話連絡時・運営推進会議・家族会時等、直接家族の意見や要望を確認している。また、家族会開催にあたり日時や内容等に工夫を凝らし、出席率の向上を図ると共に、運営推進会議議事録の送付等、意見や要望が言い易い様な環境作りにも心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1ヶ月/回の業務ミーティングにおいて意見・提案を聞いて反映させている。また、連絡ノートを活用して情報の共有を行っている。	会議や連絡ノートを活用し、職員の意見や提案等を確認している。日頃から管理者は職員とコミュニケーションを図り、意見や要望を言い易い職場環境の整備や人間関係の把握等に努めている。内外研修の機会も確保されており、職員各々が目標に応じて技術や知識を身につけ、サービスの質の向上に繋がるよう配慮している。他には、松戸市グループホーム協議会に加入しており、会議やスタッフ交流会等を通じて得られた意見・情報等を日々の業務活動や職員の育成に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出勤、退勤時には出来る限り声かけをし、話しを聞くように心がけている。社外研修の案内、人事考課、シフト管理を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務ミーティング、職員研修の参加を推進し、社外研修についても積極的に案内を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会への参加、松戸市の研修や講演会への参加を積極的に行い、サービスの質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前面接時にゆとり時間をとり馴染みの関係を築けるように努め、入居時には面接に伺ったスタッフが迎え、安心できる環境を整えるように配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学、相談、事前面接を通し、信頼関係を築きあげて本心を聞きだせるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の希望を確認した上で支援を見極めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれ得意なことを活かし、教えたり習ったりしながらスタッフと一緒にいることで、役割意識や生きがいにつながる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人のホームでの暮らしの要望等をお聞きするようにしている。面会や行事への参加を通して一緒に過ごし、支えあえる関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の面会も可能な限り来てもらい、今までの生活を継続できるように支援に努めている。	家族との外出・外泊は自由となっていると共に、昼食・おやつ作り・行事等へ家族が参加できる機会を設けており、家族との関係継続を支援している。また、知人の来訪や手紙のやり取り等も支援しており、馴染みの人間関係の継続にも努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々入居者に対し、会話や声かけを多く働きかけ、入居者同士でも安心して支えあえる環境づくりの支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の生活歴を職員で共有し、本人主体の生活を送れるようにコミュニケーションを図りながら信頼関係を築いている。	入居時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認していると共に、必要に応じて他事業所から情報提供を受け、詳細な情報の把握に努めている。入居後においては、職員が日々の生活や会話の中から本人の意向の把握に努め、職員全員で情報を共有し、本人本位の支援に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方をアセスメントシートを利用して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方等をアセスメントシート、介護記録にて現状把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の要望を取り入れ、スタッフ間でカンファレンス、担当者会議を実施し、現状に即した介護計画を作成している。	本人・家族の意向・要望・記録等を基に、職員全員で検討を行い介護計画を作成している。また、定期的に評価や目標の達成状況を確認し、必要に応じて見直しを行い現状に即した介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者別にケース記録をつけている。他にバイタル、排泄、食事摂取量、入浴等についても記録をとっている。特に気になる点等は連絡ノートを活用し、共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	業務ミーティング、担当者会議等でその時々生まれるニーズについて話し合い、対応を検討している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防訓練を年2回行い、また自治会の行事に参加し、ボランティアの利用等を行いながら、安全に豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療の主治医が月2回往診に来てくれている。その際はスタッフが付き添い近況報告を行っている。また、体調の変化に応じ、随時適切な指示が得られ、安心できている。	希望のかかりつけ医への受診が可能となっている。協力病院を設置し、定期的に内科医や歯科医による往診が実施されており、適切な医療支援が行われていると共に、入居者の健康管理・職員からの医療に関する相談等、医療面においての連携も図られている。緊急時・急変時においては24時間体制での協力が確保されており、入居者・家族・職員の不安軽減に繋がっている。他には、訪問看護ステーションとの契約により看護師による健康管理・服薬管理・相談対応等も行われており、適切な医療支援や状態変化の早期発見にも繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護ステーションより看護師が訪問し、介護職員が情報や気づきを伝え、適切な看護を受けられている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した際には病院関係者との情報交換や相談に努めている。また、ご家族と通院されている入居者様には定期的にドクターへ状態の報告を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約の時にまず説明をしている。また、日々の健康状態を把握し、心身の状態に異変が見られた時は医療機関や家族とその都度連絡を取り合い、方針を共有している。	終末期における施設の方針を明文化し、契約時に家族へ説明を行い、了承も得ている。重度化・終末期においては、要望に沿えるように家族・医療機関・職員等で話し合いをしながら、事業所として出来る限りの支援を行えるよう取り組んでいる。また、医療機関や他のサービスへの移行が円滑に行えるよう連携体制の整備も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員研修で緊急時の対応を、消防署で救命講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	現在年2回の避難訓練を行っているが今後は月1回を目標に行っていく。	年2回、消防避難訓練を実施している。災害・非常時におけるマニュアルを整備すると共に、通報器・消火器・スプリンクラー・家具の固定等、非常災害時に備えている。自治会主催の消防避難訓練に参加し、非常災害時の避難対応方法等の再確認や地域との協力体制の構築に取り組んでいる。また、運営推進会議時に、消防避難訓練の報告・意見交換・災害時の協力の呼び掛けを行う等、具体的な支援体制の整備に努めている。他には、地震災害等を想定したハザードマップを掲示し、入居者の安全確保に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を守っている。特に既往症など個人情報の取り扱いには充分の配慮を行っている。	接遇マナーやプライバシー保護については、マニュアルが整備されていると共に、毎年研修とテストを実施しており、職員全員に指導を徹底している。脱衣所でのカーテンの活用や居室ドアに鍵を設置すると共に、全職員は言葉遣いや介助方法等に十分配慮し、入居者の尊厳を守りプライバシーを損ねないように努めている。個人情報の扱いについては、玄関に掲示しており、個人別の書類等は事務所の鍵付きの書庫に厳重に保管されており、個人情報保護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	主に自己決定してもらえるような声かけを心がけ、散歩への参加、おやつや飲み物等選ぶ場面を積極的に作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを守りケアしている。起きる時間・食事時間も主のペースを守っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を利用している。 本人の希望により行きつけの美容院へ行く方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な方には積極的に参加してもらっている。 食器拭き・野菜皮むき・料理小分け等。	献立については法人の栄養士が作成する年間献立表を参考にし、入居者の好みや希望を取り入れながら食材委託業者から購入している。入居者の希望や能力に応じて、食事の準備・調理・片付け等を職員共同で行っている。手作りおやつ・外食会・誕生会等では、入居者の希望を取り入れると共に、家族の参加もあり、食を通しての様々な取り組みが食の楽しみを広げ、生活活性化に繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	極力水分は取ってもらっている。 食事摂取量にむらがある方には工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に一人ひとりの口腔状態により口腔ケアの対応をしている。また、週1回訪問歯科に来てもらい、必要な治療を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握するよう努めている。また、夜間ポータブルトイレの使用や定期的なトイレの声かけ誘導を行っている。	排泄チェックリストの活用により、個々の排泄パターンを把握しており、適切な排泄支援が行われている。一人ひとりに合った声掛け・見守り・夜間のポータブルトイレの活動等、身体状況に応じた排泄の自立に向けた支援に取り組んでいる。必要に応じて医師や看護婦と相談しながら、一人ひとりに応じた対処方法や予防方法を検討し、適切な排泄習慣の確保に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医と相談したり、飲食物の工夫や体を動かすように働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴希望を聞いている。	入浴は毎日実施されており、本人の希望や体調に応じて柔軟に対応している。脱衣所には、ベンチ・トイレ・エアコン等が設置され、快適に入浴出来るよう配慮している。入浴拒否があった場合には、無理強いせずタイミングや言葉掛けに工夫して、適切な対応に努めている。定期的に体重測定が実施されており、健康状態の確認に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースに合わせて入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をいつでもすぐに見れる場所に置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事を援助しながら、生きがいや役割意識を持てるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日その日の希望にそって散歩を行っている。また、現在年2回の外出を行っているが、今後増やしていきたい。	入居者の希望・体調・天候に応じて、日頃から散歩や買い物等の外出を行っていると共に、外食会等を実施して戸外での楽しみを支援している。また、定期的に地域の集会所で行われるお茶会に参加する等、人との交流や外出の楽しみを広げている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は個人では所持せず、事業所で管理している。本人の希望で買いたい物がある時は本人のお小遣いを使用して買物している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や、本人希望をふまえ、随時対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングに花を飾ったり、季節感を感じられる物を飾る等工夫している。	施設内は2階建ての各階が1ユニットとなっており、エレベーターが設置されている。各フロアはほぼ同じ造りとなっており、バリアフリーで、廊下・トイレ・浴室等は広く十分なスペースが確保されていると共に、物は全て収納庫に格納されており、安全面に配慮された造りとなっている。リビングにはテーブル・椅子・和室等が設置され、入居者が思い思いにくつろげるよう配慮されている。またエアコン、空気清浄機の活用により空調管理が行われており、居心地良く生活できるよう取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	落ち着いた場所を把握したり、皆で楽しく過ごせる環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を居室に置いてもらっている。	居室は入居者・家族の要望に応じて、馴染みの物を自由に持ち込む事が可能となっており、入居者が居心地良く生活できるように配慮している。また、生活歴・身体状況に応じて、ベッド等の家具の持ち込みや洋風・和風仕様の使い方が可能となっており、一人ひとりの生活スタイルに合わせた個性が表れた居室作りがなされている。全居室にエアコン・換気扇が設置され、適切な空調管理が行われている。居室には入居者のプライバシーに配慮して、鍵も設置されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺等を活用し、なるべく安全に自力で生活できるよう支援している。		